

日本作業療法教育研究会ニュース 第 64 号

2017年 7月 1日発行
日本作業療法教育研究会

＝紙面案内＝

1～2面 : コラム (学内の取り組み)
3～7面 : 第22回日本作業療法教育学会
8面 : 日本作業療法学会イブニングセミナー
8～9面 : 事務局からのお知らせ

事務局
〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
県立広島大学 保健福祉学部 古山千佳子
TEL・FAX : 0848-60-1237
E-mail otkyoiku@gmail.com

学内での取り組みの紹介

「ルーブリックを用いた関節可動域測定法指導の実践」

白鳳短期大学

毛利 陽介

ルーブリックはパフォーマンス課題の評価ツールとして、また学生の主体的な取り組みを支援するためのツールとして注目されている。本学リハビリテーション学専攻では平成28年度に作業療法学課程が新しく設置されるのに合わせて、いろいろな科目でルーブリックを作成し、学習目標・評価内容の明確化を進めている。最終的には臨床実習の評価にルーブリックの導入を計画している。28年度は、1年次体験実習に向けて検査技術定着の目的でルーブリックを活用した取り組みを行った。関節可動域測定法の習得への活動を例に、その方法や結果について報告する。

ルーブリックの課題内容には計測の設定時間内での実施などのスムーズさ、2つの軸（基本軸・移動軸）に適切に角度計のアームを当て、誤差5°以内で計測することなどの正確さ、計測前後の準備・説明、を挙げそれぞれに詳細な観点を作成し評価項目は12項目となった。授業ではまず、検査測定の意味・目的を講義形式で行い、測定実施のために必要な知識を示す。次にその知識の定着状況を筆記テストで確認する。知識が習得できれば、計測の実技演習をする。実技演習では運動方向を常に正確に保つこと、ランドマークをもとに基本軸・移動軸を確実に設定することなど基本的な技術の習得を目指す。さらに最終可動域で測定する関節以外の動きなどの代償動作を見極め対応する能力の習得を目指す。これらは学生が難しいと感じる部分である。そこで、演習時に、学生が間違いやすい部分や注意が必要なポイント、目標とすべき行動についてルーブリックを確認しながら

ら説明した。またループリックを用いて実技試験の評定内容・合格ラインについて学生に説明し、評価基準の秀 A,優 B を目指して練習するよう促した。実技の練習は4人グループで行った。評価観点のみを記載したシートを学生に配布し、検査測定をしている2名を残りの2名が評価観点をもとに観察・評価しお互いをフィードバックすることとした。教員も同様にチェック表を利用し測定にかかる時間やそれぞれの課題をクリアできているかチェックし、到達度をフィードバックした。評定で D の項目が1つでもあれば再テストとし、合格するまで同様の実技テストを繰り返し実施した。実技テスト直前に実施した知識の項目の筆記試験では、20名中、17名が評価基準の A・B 判定「知識の9割以上を正確に説明できる」、3名が C 判定「内容の8割以上を正確に説明できる」で合格となった。続いて実施した実技では4名が合格となり、16名が不合格となった。不合格者は計測の正確さを判定する5項目のいずれかで D 判定がついており、内容は「計測角度の数値に15°以上の誤差がある」、「移動軸・基本軸への角度計のアームの当て方がずれている」へのチェックが大半を占めた。フィードバックは各々の実技試験直後に、チェックをつけたループリックを提示して、評価内容を学生と共有した。計測の正確さ5項目の内訳は A 判定 0%, B 判定 26%, C 判定 40%, D 判定 29%, E 判定 5%であった。スムーズさや計測前後の準備や説明の課題ではほぼ B・C 判定であった。再テストでは6名が合格し、正確さの課題で改善が大きく見られ A 判定は 0%, B 判定 40%, C 判定 37%, D 判定 16%, E 判定 6%となった。ループリックを用いることで、学生自身が測定技能に対するパフォーマンス能力の到達度を認識し、不合格となった場合にも改善すべきポイントを具体的に示すことができた。また再テスト後に C 判定より B 判定の割合が増えたことは目指すべき目標に対して主体的な学びがあったと考えられる。

ループリック使用の利点は、学生に具体的な行動の目標を提示し活用することができることである。優秀と評価される行動や不可となる行動が明示されていることから、学生は自ら目標の設定をすることができ、すべきでない行動が理解できる。このことで学生が自分に足りない部分を理解でき、自主的な学習を促すことができる。また、パフォーマンステスト（実技試験）の評定時間が省略でき、終了後早いタイミングでフィードバックができることも重要な点といえる。

専門職を養成する立場からは、臨床現場に送り出せる学生のレディネスについて考えさせられることが多い。ループリックを用いた学習指導により、自信をもって学生を送り出せるよう取り組みを継続し充実させていきたい。

お知らせ

第22回 日本作業療法教育学会

in 東京

テーマ： **「新たな臨床教育のあり方」**

主催：日本作業療法教育研究会

会期：平成29年11月 11日（土）～11月 12日（日）

会場：首都大学東京 荒川キャンパス

参加費：

研究会 会員：事前登録 5000円 当日参加 7,000円 1日参加 4,000円

非会員：事前参加 7000円 当日参加 8,000円 1日参加 5,000円

（演題の発表者は1日参加では発表できません）



学術集会の趣旨

作業療法の実践が多様化する中、作業療法士養成教育における臨床教育は臨床実習指導者に指導内容を委ねられることが多く、経験主義に基づく臨床教育が長年続けられがちになり、実習における患者担当制から生じる問題なども指摘されている。昨今、現状に即した実習のあり方を見直す時期にきています。

医学生や看護学生の臨床及び臨地実習ではすでに患者に対する侵襲性を考慮し、臨床で学生が行える（許容される）行為やその水準を明確に定め、「臨床実習指針」として示しています。一方、作業療法士・理学療法士の臨床教育においても、臨床家の技能と実習生が実施可能な技能の基準が明確にされていないことから実習生が行う行為の安全性が確保されていないとの指摘もあり、厚生労働省と協議しながら日本作業療法士協会では「作業療法臨床実習の指針」の策定の検討に入っています。

実際の教育現場ではクリニカルクラークシップなど学生のコンピテンシーを考慮した学習法を取り入れたり、看護学生の臨地実習のように教員が現場で指導する方法を取り入れるなど各養成校でも様々な工夫もみられてきています。

今回の学術集会では、養成校教育に影響を与える「PT・OT 学校施設指定規則」や「指導ガイドライン」の改定が進められる中で臨床実習のあり方も大きく変わることが予想され、学内教育の役割を含め新しい時代の臨床実習のあり方を検討することを学術集会のテーマにしました。昨年に続き、OT 協会の中村会長並びに陣内教育部長（理事）に作業療法の実践の変化と教育の

方向性についてお話を頂き、実践力の高い（コンピテンシー）学生を育てる臨床教育のあり方に関して参加いただく皆さんとともに議論できる場を設けたいと思っています。また、会員の皆様には日ごろの教育に関する演題をご発表頂きながら新たな英知の収集と未来の OT 教育について一緒に考える機会にしたいと思っています。

ぜひ多数の演題発表とご参加をお持ちしています。

プログラム

11月11日（土）-----

12:30 受付

13:00～13:10 開会式

13:10～14:10

特別講演1 「(仮) 学生の理解をはぐくむ作業療法教育（教授法）」

講師 聖隷クリストファー大学（研究会会長） 宮前 珠子 氏

14:20～15:20

シンポジウム： (仮) これからの臨床教育をどのように考えるか

1.世界作業療法士連盟の教育基準の改定から 東北福祉大学 佐藤 善久 氏

2.臨床実習の手引き改正から 藤田保健衛生大学 鈴木 孝治 氏

3.専門学校の教育と臨床の場の経験から 順心リハビリテーション病院 長倉 寿子 氏

15:30～17:00

一般演題発表（10～20 演題）：

口述発表

フラッシュトーク ポスター発表

18:00～

懇親会（首都大学東京 校内での開催予定）

11月12日（日）-----

9:00～10:00

特別講演2 「(仮) 作業ベースの OT 実践と教育」

日本作業療法士協会 会長 中村 春基 氏

10:15～11:45

特別講演3 「(仮) 作業療法教育の基準改定の方向性」

～WFOT 作業療法士教育最低基準の改定と指定規則の見直しの方向性～

日本作業療法士協会 教育部 部長 陣内 大輔 氏

<昼食>

12:30～13:15

総会

13:15～14:45

教育方法論ワークショップ

作業療法士のコンピテンシーを考える

(Part 3: 臨床実習と OT コンピテンシー)

関西福祉科学大学 酒井 ひとみ 氏

(コンピテンシーワーキンググループ代表)

14:45～15:00 閉会の辞（インフォメーション）

(15:00-16:00 理事会)

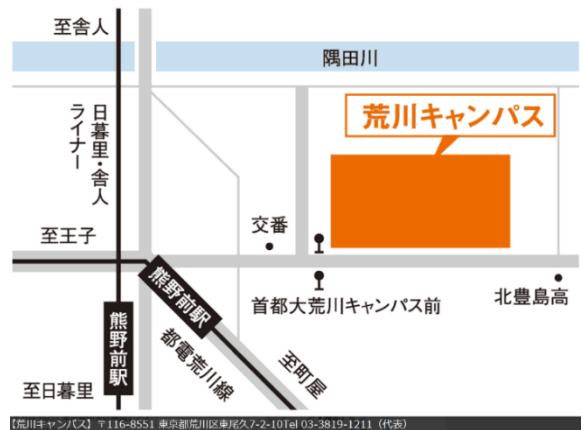
会場案内

首都大学東京 荒川キャンパス

(〒116-8551 東京都荒川区東尾久 7-2-10)

アクセス：

- ・日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅下車徒歩3分、
都電荒川線「熊野前」駅下車徒歩3分
- ・田端駅の都営バス端 44 系統「北千住駅行」に乗車、
「首都大荒川キャンパス前」下車徒歩 0 分



■ 一般演題発表形式及び募集 ■

1. 口述演題，発表 10 分，質疑応答 5 分とさせていただきます。詳しくは，演題応募規定をご確認ください。
2. ポスター演題：フラッシュトークによる 3 分間のご発表のちにポスター前で参加者の方々とご議論を頂くこととなります。

* なお演題数により発表形式が変更となる場合がありますのでご了承ください。

演題申込及び抄録提出は **7月3日(月)～9月8日(金)** の期間で行ってください。

尚、非会員の方が演題申込をする場合には、日本作業療法教育研究会に入会申し込みを行ってください。共同演者も作業療法士の方は本研究会会員であることが必須となっております。入会手続きは研究会のホームページ (<http://www.joted.com/>) に従って申し込んでください。

■ 演題申し込み先 ■

関西福祉科学大学保健医療学部 酒井 ひとみ 宛 E-mail:sakai@tamateyama.ac.jp

記載事項：メールタイトル：「第 22 回日本作業療法教育学会 演題申し込み」

会員種別（会員・非会員），お名前，ご所属，ご連絡先住所，電話番号

※メール到着後，受付メールをお送りいたします。ご確認ください。

■■参加申し込み■■

会場準備の都合上、参加をご希望される方は、**10月11日(水)**までに、研究会のホームページ (<http://www.joted.com/>) よりお申し込みください。宿泊は、各自でご予約下さい。懇親会は学術集会会場の近くを予定しています。参加申し込み時に懇親会の出席の有無も合わせてご連絡ください。

(会員の方は、事前参加申し込みと当日参加申し込みでは参加費が異なりますのでご注意ください。)

注：事前参加申し込みは**10月11日(水)**までですが、現在非会員で、会員として申し込みをする場合には研究会ホームページの入会申し込みをしてください。学術集会当日に入会金・年会費とともに会員参加費を集めさせていただきます。



第 22 回 日本作業療法教育学会 演題募集 (規定と執筆要領)

【演題応募規定】

1. 演題応募内容について

作業療法教育の学術的発展, 教育者の資質と技能の向上に寄与する演題を募集します。

2. 倫理的事項について

最大限, 倫理的な配慮を行って下さい。関係機関の倫理審査委員会などの承認を得た場合は, そのことを記載してください。

3. 著者について

著者が, 作業療法士である場合は, 本会会員であることを条件とします。なお, 著者の数は原則として 5 名までとします。

4. 抄録の長さについて

抄録の長さは, 本文, 文献, 図・表合わせて, A4 用紙 2 頁以内とし, 図・表は明瞭なものを使用して下さい。

5. 執筆要領について

後出の「執筆要領」に従って下さい。

6. 採否について

原稿の採否は本学術集会委員会において決定します。場合により, 加筆, 修正をお願いすることがあります。なお, 所定の枚数を超過した抄録は採用しません。

7. 演題の応募について

発表希望者は, ①代表者氏名, ②所属, ③連絡先(郵便番号, 住所, 電話, e-mail アドレス)を明記の上, 抄録原稿を添付し, 件名は, 「第 22 回日本作業療法教育学会演題応募」として, E-mail にて, 下記応募先までお送り下さい。

8. 応募先

関西福祉科学大学 保健医療学部 酒井ひとみ E-mail: sakai@tamateyama.ac.jp

【執筆要領】

1. 原稿は全て横書きとして下さい。用紙は, A4 用紙 2 枚以内とします。MS-Word2007/2010 ファイルで作成して下さい。

2. 文字は全て明朝体を使用して下さい。

3. 表題頁には, 表題(15ポイント, 太字), 所属・著者名(5名ま)・key words(3つまで)を 10.5ポイントで記載して下さい。発表者名に○印をつけて下さい。抄録の本文は, 10.5ポイントで作成し, 【緒言】, 【方法】, 【結果】, 【考察】, 【結語】が明らかになるように小見出しをつけて下さい。

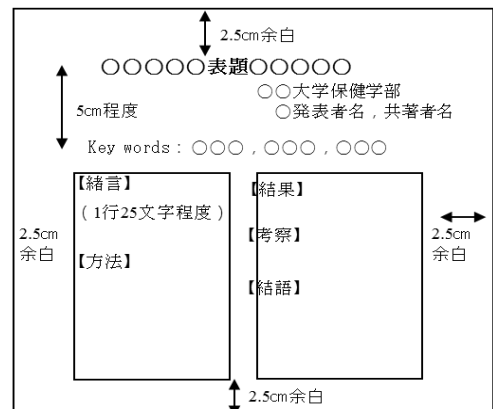
4. 書式は, 2段組みで, 1行 25文字程度で, 余白は, 上下左右ともに, 2.5cmを空けてください。行数は自由とします。

5. 文章表現は現代かなづかいとし, 数字は算用数字, 数量は国際単位系(SI 単位)記号を用いて下さい。(例;m,cm,mm,ml,kg,cm² など)。

6. 図表の数は自由としますが, できる限り明瞭なものを使用して下さい(白黒印刷です)。

7. 引用・転載にあたって, 著作権についての配慮を行って下さい。

(抄録作成例)→



第 51 回日本作業療法学会 イブニングセミナーのご案内
新しい臨床実習の取り組み
～クリニカル・クラークシップを臨床実習に取り入れるために～

日本作業療法教育研究会事務局
古山千佳子

第 51 回日本作業療法学会において日本作業療法教育研究会主催のイブニングセミナーを開催します。是非ご参加ください。

テーマ:新しい臨床実習の取り組み～クリニカル・クラークシップを臨床実習に取り入れるために～

セミナー区分:イブニングセミナー2

日時:2017年9月22日(金)17:30～19:00

会場:第3会場 ホールB7(2)

司会:宮前 珠子(日本作業療法教育研究会会長)

話題提供者:佐藤 善久(日本作業療法教育研究会副会長)

小林 幸治(作業療法教育研究会理事)

東川 哲朗(日本作業療法教育研究会会前監事, 会員)

概要:臨床教育は学内教育と実践を統合する重要な教育機会である。近年、医師を中心とした医療専門職の間でクリニカル・クラークシップ(CCS)を用いた技術習得型あるいは経験重視型の臨床指導が行われており、作業療法の臨床教育にも導入され始めている。本セミナーでは、CCSを用いた臨床教育が、どのように学生の資質を高め、効果的な教育に結びつくかを議論する。最初に、CCSの基本的考え方の紹介と臨床教育に導入する際の利点と課題を紹介し(小林氏)、続いて CCS 型の臨床実習を大学教育に導入する際の内容と教育的効果や学生への影響を養成校の立場で話題提供する(佐藤氏)。最後に、実際に実習指導者として CCS を用いた臨床実習を指導する方法と影響について話す(東川氏)。これらの話題提供をもとに現状に合致した臨床教育について皆さんとともに議論を深めていきたい(抄録より)。

事務局だより

【じむきょく】 - 事務局よりお知らせ -

会員募集のお知らせ

作業療法教育研究会では、会員を募集しています。

この研究会では、より質の高い作業療法教育の実現を目指して、教育現場における様々な問題提起や問題解決に取り組んでいます。

主な活動は、年1回の学術集会、年1～2回の学術誌「作業療法教育研究」の発行、年2～4回のニュース発行、ホームページを通じた情報発信と情報共有です。現在の会員数 224 名、賛助会員 2 です。

作業療法士教育に興味、関心のある方は、是非ご入会ください。お待ちしております。

詳細は、日本作業療法教育研究会ホームページ 入会案内 <http://www.joted.com/> をご覧下さい。

入会金：1,000 円 年会費：3,000 円 賛助会員 一口 10,000 円

振込口座 郵便振り替え 01320-2-58224 日本作業療法教育研究会

問い合わせ先 事務局 広島県三原市学園町 1-1

県立広島大学 作業療法学科 古山研究室内

E-mail: otkyoiku@gmail.com

OT 教育研究会ニュース メール配信します！

OT 教育研究会ニュースのメール配信を始めました。情報をより早く、お届けすることができます。これまでの郵送からメール配信へ切り替えご希望の方は下記メールアドレスまでご連絡ください。なお、登録いただいたメールアドレスには学術集会のご案内など本研究会のいろいろな情報をお送りしていく予定です。ホームページもあわせてご覧ください。 otkyoikunews@gmail.com

研究費助成募集

2017 年度日本作業療法教育研究助成について

日本作業療法教育研究助成は、作業療法教育の発展に寄与する研究に対し、1 研究 5 万円、1 年度 3 研究を上限に助成する制度です。2017 年度は 11 月頃に募集を開始する予定です。是非、ご応募ください。詳しい応募要項については、日本作業療法教育研究会ホームページ <http://www.joted.com/> (研究費助成) をご覧ください。

「作業療法教育研究」投稿原稿募集のお知らせ

日本作業療法教育研究会では、機関誌「作業療法教育研究」の発刊を年 1 回行っています。広く会員の皆様からの論文の投稿をお待ちしております。機関誌にあります投稿規程をご覧ください。規定に沿って準備し事務局あてにお送りください。ご不明な点などございましたら、研究会事務局までお問い合わせください。なお、査読は受付日順に行います。原稿受理日によっては、次号の掲載になることもありますので、あらかじめご了承ください。

(ホームページ <http://www.joted.com>)

編集後記

新学期が始まり、はや 3 か月が過ぎました。新入生はゴールデンウィークあたりまでにレールに乗せることが、今後の学業にも影響を与えるというデータもあり、スタートダッシュが大切だなと実感しています。思うのは簡単ですが、学生に実践となると大変です。焦っても仕方ないと思いつつ、コツコツ頑張っていきます。(西井正樹)

勤務校は 4 年次の臨地実習まっただ中です。CCS への移行、MTDLP への対応、実習に関わるコンピテンシーなど、検討事項は山積です。諸基準の改定内容もふまえて対応していくことが求められますが、現状をしっかりと分析し、優先順位を考えて行動していこうと思います。第 22 回学術集会はその優先順位の検討に大きく役立つものと考えています。(藪脇健司)